

事業計画書

事業名	夢への挑戦 ～やり抜く力の大切さ～
実施箇所	佐久市立佐久平浅間小学校 体育館
実施期間	事業開始予定年月日 2019年 6月 1日
	事業終了予定年月日 2019年 10月 6日
事業概要	<p><事業の目的及び達成目標> 少子化が進む現代の日本。激動の時代を迎える今、あらゆる状況に対応しなければなりません。そのためには、人間力溢れる社会企業家の育成が必要であり、次世代を担う子どもたちを「地域が育てる」という意識を醸成させなければなりません。</p> <p>子どもは本来「やる気」「やり抜く力」を持っています。心身ともに健康な子どもは、新たな事柄に次々と挑戦していくことに喜びを持ちます。新たな課題を示されたときに、多くの子どもは与えられた目標に向かって「やる気」「やり抜く力」を出して自発的に取り組もうとし、努力します。努力したことが認められた時に、満足感を味わいながら、次の目標に向かうエネルギーを体の中に蓄えていきます。しかし、子どもたちに対する過保護、甘やかせすぎや過干渉な親の増加が原因で家庭の教育力の低下がしており、結果としてすぐにあきらめてしまう「投げ出す子」を生み出すきっかけとなっています。子どもたちは、難しい問題に出会っても、それに挑戦し自分でやり遂げることで自信を持つ「やり抜く子」であることが必要であり、大人たちはそれを支える姿勢が必要であると考えます。</p> <p>そこで、子どもたちにスポーツを通じて目標を持つことの大切さと、目標を達成するために努力することの重要性を伝えることで「やり抜く子」の育成を目的に本事業を企画いたしました。</p>
	<p><事業の内容> 【事業内容】 トークライブ+交流企画 【講師】 ○浅尾 美和 氏（元プロビーチバレー選手） ※高校時代、全国高校バレーボール選抜優勝大会に出場。全国高校総体ベスト16。卒業後ビーチバレーに転向。実力もさることながら、プロポーションとルックスが話題となり「ビーチの妖精」と呼ばれビーチバレー人気の火付け役となった。辛い練習や重圧から何度もバレーボール、ビーチバレーを辞めたくなるが、仲間やファンからの応援の力で競技と向き合いビーチバレーの魅力を発信。結果は出なかったものの、すべてをやりきった上で2012年12月に引退。</p> <p>○狩野 舞子 氏（元バレーボール全日本女子代表） ※ロンドン五輪銅メダリスト。現役時代は両アキレス腱を断裂するなど、度重なる怪我に悩まされたが、オリンピックの舞台を夢みて、何度も復活。海外リーグ移籍など様々な経験をし、ロンドン五輪で銅メダルを獲得。2018年4月引退。</p> <p>【開催日】 2019年10月6日 日曜日 第1部 トークライブ 14:10～15:00 第2部 交流企画 15:00～15:30</p> <p>【開催場所】 佐久市立佐久平浅間小学校 体育館 【住所】 長野県佐久市長土呂1717番地 【参加予定人数】 トークライブ（佐久地域住民400名） 交流企画（佐久地域小4年～中学生50名予定）見学可能</p> <p>【参加費】 無料 【申込方法】 抽選にて参加者を決定し、案内の発送をもって連絡。</p>

【方法】

- ・対象：第1部 トークライブ 佐久地域住民 約400名
- 第2部 交流企画

佐久地域小学校4・5・6年生 中学生 約50名予定

※ターゲットとしては、小中学生を中心。夢や目標を達成できるか否かは別とし、あきらめないことの大切さを投げかける内容をお話ししていただきますが、本公演は大人にも通ずる内容であることと、子どもたちの夢や目標を大人にも大切に扱ってほしいことも投げかけたいため、地域住民に開放する予定。

- ・広報計画 ※別紙にて

- ・スケジュール：

広報及び募集開始：8月上旬

募集締め切り：9月上旬

準備及び手配：9月中

事業当日：10月6日（日）

<アピールポイント>

※SDGsの理念を取り込み表示する。

「5 ジェンダー平等を実現しよう」

5. C ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。

高身長が理由でいじめにあった点から、目標をもつことで生きがいを感じられるまでになった観点

「8 働きがいも経済成長も」

8. 6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

やり抜く子の増加を目指すことで、将来の働き手の育成につながり、しいては経済成長をねらう。

世界的な課題であるSDGsを意識し、誰一人取り残さない持続可能な社会づくりに取り組むとともに、SDGsそのものの発信をする。

年間計画

4月	
5月	
6月	準備・計画 ↓
7月	↓
8月	月上旬：広報及び募集開始 ↓
9月	月上旬～中旬 募集締め切り
10月	6日（日）事業当日
11月	

	決算												
	12月												
	1月												
	2月												
	3月												
活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果（事業の対象者・参加予定人数も記載）	<p><「公益性」の視点> 対象：第1部 トークライブ 佐久地域住民 約400名 第2部 交流企画 佐久地域小学校4・5・6年生 中学生 約50名予定 ※ターゲットとしては、小中学生を中心。夢や目標を達成できるか否かは別とし、あきらめないことの大切さを投げかける内容をお話ししていただきますが、本公演は大人にも通ずる内容であることと、子どもたちの夢や目標を大人にも大切に扱ってほしいことも投げかけたいため、地域住民に開放する予定。</p> <p>Q：将来の目標がはっきりしているか。（”とてもあてはまる+まあまああてはまる”という回答）</p> <table border="0"> <tr><td>小4</td><td>52.5%</td></tr> <tr><td>小5</td><td>55.1%</td></tr> <tr><td>小6</td><td>52.2%</td></tr> <tr><td>中1</td><td>47.7%</td></tr> <tr><td>中2</td><td>42.3%</td></tr> <tr><td>中3</td><td>44.3%</td></tr> </table> <p>※東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所調べ</p> <p>上記の割合を参考に、講師から、自分の夢や目標の大切さや、あきらめない力の向上についてお話いただくことで、やり抜く子の増加に伴い、上記の数値の向上を狙う。</p>	小4	52.5%	小5	55.1%	小6	52.2%	中1	47.7%	中2	42.3%	中3	44.3%
小4	52.5%												
小5	55.1%												
小6	52.2%												
中1	47.7%												
中2	42.3%												
中3	44.3%												
活動を継続するための取組や考え方（資金面、人材等）	<p><「自立性」の視点> ・運営にPTA等諸団体と協力を依頼し、やり抜く子どもの育成の意識を伝搬することで子どもたちの成長に必要な大人の姿勢の共有を図ります。 ・資金面として、クラウドファンディング・元気づくり支援金等を活用する。</p>												
翌年度以降の活動内容概要	<p>当会議所青少年育成事業 「佐久っ子道場」・・・親元を離れた環境の中で、初めて触れ合う人間関係を通じたコミュニケーションの大切さや、自然体験による五感の成長を目的とした事業。 「佐久チャイルドワークス」・・・職業体験事業。地域に根付いた職業の魅力を体験する等。 上記の事業に、当企画の経験や、やり抜く力の向上要素を取り入れる。</p>												
事業の最終目標	<p>将来の目標を持つ子ども70%以上を目指す。 その目標に対しすべての子どもが「やり抜く」意識をもつようにする。</p>												